Market Flash

６月利上げは見送りへ

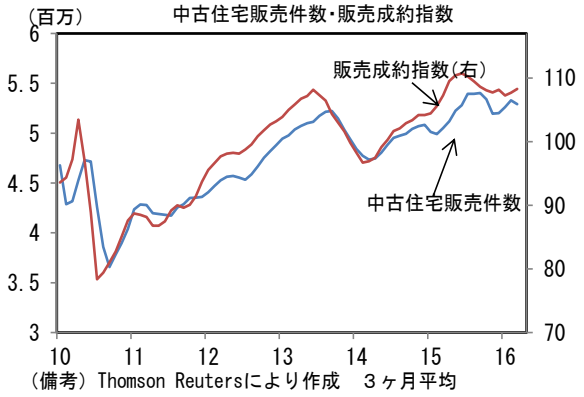
2016年４月28日(木)

第一生命経済研究所　経済調査部
主任エコノミスト　藤代　宏一
TEL 03-5221-4523

【海外経済指標他】～中古住宅：販売は復調へ～

・３月中古住宅販売成約指数は前月比＋1.4%と市場予想（＋0.5%）を上回り、２月の＋3.4%に続いて高い伸びを示した。この指標が実際の中古住宅販売件数に対して１-２ヶ月の先行性を有することを踏まえると、目先的な住宅市場の見通しは明るい。これはNAHB住宅市場指数が高水準を維持していることと整合的だ。

・



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

・前日の米国株は小幅に上昇。通信機器大手の決算は嫌気されたが、原油価格、米金利低下が追い風。FOMC声明文は株式市場でハト派と解釈された模様。ＷＴＩ原油は45.33ﾄﾞﾙ（＋1.29ﾄﾞﾙ）で引け。米原油在庫の増加が嫌気されたものの、米金利低下がコモディティをサポート。

・前日のG10 通貨はAUDが最弱でそれにNZDが続いた。１Q豪CPIが前期比▲0.2%と予想外に低下、前年比も＋1.3%と15年４Qから0.4%pt減速。これを受けてAUDはオセアニア時間から一貫して下落、NZDも連れ安。他方、JPY、EURなどマイナス金利通貨は方向感に欠ける展開。FOMCもほぼ無風通過。

・前日の米10年金利は1.851%（▲7.8bp）で引け。FOMC通過後に米債ラリー。欧州債は総じて堅調。ドイツ10年金利が0.286%（▲1.3bp）で引けたほか、イタリア（1.519%、▲1.7bp）、スペイン（1.628%、▲0.7bp）、ポルトガル（3.186%、▲3.7bp）も金利低下。３ヶ国加重平均の対独スプレッドは概ね横ばい。

【国内株式市場・経済指標・注目点】

・日本株は、日銀金融政策決定会合の結果発表を控えて様子見でスタートしよう。

・４月FOMCではＦＦレート上限を＋0.5%で据え置くことが決定された。反対票（利上げ主張）はジョージ・カンザスシティ連銀総裁のみ（２会合連続）。声明文のトーンは予想されたとおりハト派な印象で、６月の利上げを示唆するような文言は見当たらず。昨年10月FOMCでは「次回会合での利上げが適当かどうか決定するために」という文言が挿入され、12月の利上げ計画に関するシグナルが発せられていたが、今回はそれに該当するような表現はなかった。ただ、「世界の経済・金融情勢が引き続きリスクをもたらしている（pose risk）」との文言は削除され、金融市場の混乱が実体経済の安定を脅かすことについての警戒は解かれた。６月の利上げ確率については、今後、株価が最高値を更新し続けるなど金融市場の楽観が続けば情勢は変わってくるが、インフレ率が加速度的に上昇していく兆しが確認されず、実体経済についても

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

１－３月期ＧＤＰが低調な状況下では、利上げを急ぐ必要がない（市場予想：前期比年率＋0.5%）。ドル高による企業収益の圧迫も無視できないだろう。諸点に鑑みて、６月の利上げ確率は低いと判断。

・本日、日銀は金融政策決定会合の結果を発表する。筆者は現状維持の可能性が高いとみているが、追加緩和を予想するエコノミストも相当数存在する。予想されているオプションは、①マイナス金利拡大とセットで「貸出支援基金」の適用利率をマイナス化、②ＥＴＦ増額（ネット購入額３兆円→６兆円）、③長国買い入れ増額（80兆円→90-100兆円）などがある。①については22日付けブルームバーグが観測記事として報じたもの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。